

2017年12月14日

「JICA 草の根技術協力事業の質の向上に向けて」意見交換会の報告

- 【日時】 2017年10月4日(水) 午後1時30分から5時30分まで
【参加者】 NGO11 団体 (意見交換会後に実施したインタビュー協力団体も含む)

今年度の NGO-JICA 協議会のテーマのひとつである「JICA 草の根技術協力事業の質の向上」について、過去および実施中の案件を NGO 間でピアレビューを行い、「質の高い事業」とはどのような案件かを「10年の振り返りのための分科会報告書」の提言をもとに意見交換を行った。

第1部では、DPI 日本会議が2008年から13年にかけてブラジルで実施した「ろう者組織の強化を通じた非識字層の障害者への HIV/AIDS 教育事業」を事例として、(1) JICA との連携意義、連携による付加価値；(2) 一定水準の質の担保の工夫；(3) NGO の特徴；(4) イノベティブ；(5) 組織、個人能力強化という5つの観点からピア・レビューを行った。その結果、

- ・ JICA ブラジル事務所との緊密な連携により、事業が円滑に進められただけでなく、JICA の技プロや他のステークホルダー (国連機関、大学、病院、国際 NGO 等) とのつながりが広がった。
- ・ 草の根事業開始前にすでに築かれていたカウンターパートとの良好な信頼関係や、ステークホルダーとのよりよいコミュニケーションが、リスクの回避や事業を成功に導いた大きな要因となった。
- ・ 団体の当事者専門性を活かし、ニーズと現状を的確に把握してだけでなく、ろう者メンバーが事業の主体者となって活動できる当事者性を発揮できた。
- ・ 案件形成のコンサルテーションのプロセスの中で、障害者支援という切り口ではなく、HIV/AIDS 教育という切り口とし、保健分野での案件として採択に結びついた。

などの学びが得られた。

第2部では、参加者が3つのグループにわかれ、参加者それぞれの団体の草の根技協事業の実施経験をもとに、既述の5つの観点から具体的な意見を出し合った。グループ・ワークで交わされたそれぞれの観点からの主な意見は以下の通り。

- (1) JICA との連携意義、連携による付加価値
 - ・ 草の根レベルのニーズと国家レベルのニーズを合致させる
 - ・ 政策に影響のある取り組み
 - ・ 草の根の活動に対して日常的に行政との連携を高める
- (2) 一定水準の質の担保の工夫

- ・ 丁寧に時間をかけてコミュニケーションを取り、共通認識をもちながら、草の根レベルのニーズを吸い上げ、当事者主体のアプローチを採用する
- ・ 時代のニーズ（MDGs や SDGs、マイノリティなどインクルーシブな取り組み）に合致させる、「取り残された」ひとびとへリーチする
- ・ （JICA と）意見の相違があるときは徹底的に議論し乗り越え、相互理解に努める（事業の質の評価には定量的な視点だけでなく定性的な視点も重要）

（3） NGO の特徴を活かす

- ・ 支援国の現地の人々を巻き込む、一方的な支援ではなく双方向の関係性や学び合いを重視
- ・ 社会問題化されていない、見えにくい課題に対する取り組み
- ・ 案件形成や事業立案、実施において住民参加の促進などプロセスを重視する
- ・ 現場の状況に合わせた「オーダーメイド型」の取り組み

（4） イノベティブな案件

- ・ 課題として認識されていなかったことを社会課題として取り上げる「先見性」の高い取り組み
- ・ JICA がこれまで取り組んだことがない課題への取り組み

グループ・ワークに引き続き行われた意見交換において、NGO が質の高い事業を形成・実施するうえの課題として挙げられたものは以下の通り。

- ・ 草の根事業らしい案件を形成するために、案件形成（調査等）は自己資金で行わなければならない。
- ・ 草の根事業らしく地域に根差した信頼の構築（プロセス）には時間を要するため長期的な支援が必要。しかし、事業対象地を変えない後継事業は採択されづらいのではないかと。フォローアップなどで継続できれば、学んだことや構築した関係を活かして、事業の質をさらに向上できるのではないかと。
- ・ フェーズ I では、事業担当者から質の高いコンサルテーションを受けることができ、案件形成と事業実施の際は、前向きな議論・協議ができた。また、JICA のリソースについても最大限に生かせるよう、適切な人材を紹介いただき、事業の質を高め成功に結び付いた。しかし、フェーズ II で担当者が変わった際、案件形成・協議が進まなかった。資金を出す側と受ける側との協働関係という難しさはあるが、事業の質の向上を目指す上で、事前・実施中のコンサルテーションはきわめて重要。
- ・ JICA が考える事業の質や申請案件の審査基準が見えづらい。NGO は、JICA が求めるよい事業の価値基準を理解する必要があるのではないかと？
- ・ グループワークで出されたような、よい案件をつくるために NGO が重視しているものは、JICA による申請案件の審査の視点と異なるのではないかと？

以上